

氏名	今泉裕美子（教授）
こんな研究をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・国際関係学（International Studies）の方法論…日本のオリジナルな国際関係研究の歴史（文化や社会も対象）を、第二次世界大戦前の植民政策研究から発展した研究について。 ・ミクロネシアと日本との関係史、ミクロネシアの地域社会を、アジア及び太平洋島嶼をめぐる国際関係の中で追究。①戦前日本の南洋群島統治政策とそこに暮らす人々との関係（移民、戦時動員、引揚げと、引揚げ後の地域社会史との関係）、②太平洋戦争（南洋群島での総力戦の実態や赤道以南のミクロネシアとの関係）と米軍占領（民間収容所や労役などを通じたアメリカの“民主化”・“文化”との出会い）、③委任統治と戦略的信託統治（委任統治の掲げる「文明化」、信託統治の掲げる「自治」「独立」「平和」「安全」）をミクロネシアから検証、④ミクロネシアの戦災からの「復興」、軍事基地化と脱植民地化との関係、⑤南洋群島帰還者の諸活動・戦後ミクロネシアとの「交流」（沖縄、東京、北海道など日本各地）、⑥旧南洋群島を生きた人びとの植民地・戦争経験の解明、その継承の意義と方法を、ミクロネシアの研究者、教員と共同で取り組む（代表）。
こんな成果を挙げています	<ul style="list-style-type: none"> ・「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治－委任統治と「島民」の創出」中野聡他責任編集、棚橋訓編集協力『岩波講座世界歴史 19 太平洋海域世界～20 世紀』岩波書店、2023 年。 ・「第六部第六章世界の中の沖縄第二節引揚げたウチナーンチュ」（助）沖縄県教育庁文化財課史料編集班編『沖縄県史（各論編第7巻現代）』沖縄県教育委員会、2022 年。 ・今泉裕美子他編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究－国際関係と地域の視点から』日本経済評論社、2016 年。 ・「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014 年。 ・「南洋群島研究」鴨下重彦他編『矢内原忠雄』東京大学出版会、2011 年。
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	沖縄県史、同県内市史の編纂、執筆を通じて、地域社会・市民にとっての「歴史」、「国際関係」とは何か。歌謡、音楽、演劇、絵画、写真、映画、モノ、その他表現にみる「南洋群島」、「ミクロネシア」。
こんな授業を行っています	「異文化社会論 I A」「異文化社会論 I B」のシラバスをご参照ください。
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄戦の記憶継承プロジェクト実行委員会主催「沖縄戦の記憶継承プロジェクト第4期講座第3回 講演：旧南洋群島（ミクロネシア）と沖縄－「もうひとつの沖縄戦」から考える」2026年3月21日（於琉球新報社） ・JOCA 沖縄主催「'25 レッツスタディ！ウチナーネットワーク 旧南洋群島に関する講座 講演：「南洋へ移民した沖縄の人々の経験とこれからのつながりに向けて」2026年2月7日（於沖縄県立図書館3階ホール） ・千代田区主催・地球市民講座2023「グアム・サイパンを知らう」第2回「グアム・サイパンの歴史 I」（2023年11月10日）、第3回「グアム・サイパンの歴史 II」（2023年11月17日）。 ・ギャラリートーク「赤松俊子の旅した『南洋群島』 原爆の凶丸木美術館・企画展「赤松俊子と南洋群島」（2015年3月28日）。
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	北原きよ子さん。1946年樺太アイヌの両親が第二次世界大戦後に引揚げた余市生まれ、元関東ウタリ会会長。幼い頃から抱いた違和感、疑問、怒り、悲しみ一つひとつを出発点に、自ら調べ、学び、問題の特徴を見極め、異なる文化、階層、アイヌ問題に無自覚・無知の人々に向き合い、アイヌが伝統的な方法とする話し合いを通じて問題に取り組む。アイヌの伝統文化の復元も行う。著書『わが心のカツラの木－滅びゆくアイヌといわれて』（岩波書店、2013年）は学部資料室にあります。